

2009年5月28日付け 「武漢ネット」より

湖北省は中国を代表し国連に「端午節」を世界遺産として登録申請書を提出

国家: 中華人民共和国 遺産名称: 端午節。昨日、湖北省無形文化遺産保護センターの江清和主任の机で、記者はこのような申請書を見た。江主任は「湖北省は中国を代表し、国連教育科学文化機関に端午節の登録を申請した。これが登録されれば、人類の無形文化遺産を代表するものとなるだろう」と喜んで語った。

第一回国家クラスの無形文化遺産リスト「民俗」類の中で、「端午節」は三省により共同で申請され、屈原の故郷の端午風習をはじめ、西塞神舟会、汨羅江沿いの端午風習、蘇州の端午風習を含む。湖北省の端午節の風俗は最も典型的なので、文化部は湖北省より中国の代表として、端午節を文化遺産に申請することを選んだ。

湖北省の「秭帰」地区は屈原の生誕地で、一年に三つの端午行事が行われる。5月5日は「小端午」と呼ばれ、この日に人々は菖蒲を門の前に掛け、雄黄酒を飲む。5月15日は端午最中で、ドラゴンボートレースを行う。5月25日は端午の末で、瘟舟(疫病を払うために、小舟を長江に流す風習)送り、親友団欒の風習がある。特に「秭帰」地区の農民は自ら「騷壇」詩社を組み、400年前から端午の詩を代々歌い続けている。

黄石市には2000年以上の歴史がある西塞山神舟会がある。主な内容は神舟づくり、京劇ショー、祭典、巡遊、神舟を長江に流す風習などのイベントと活動がある。これらの風習は毎年40日間かけて行い、今現在、国内端午節期間内で最も長い祝典と祭典活動である。

その前に我が国の昆曲芸術、琴芸術、新疆ウイグル族のカム芸術及びモンゴル国と連合申請したモンゴル族の長調民族歌は既に「世界無形遺産代表作」に入った。



ドラゴンボートレース

2009年5月28日付け 「長江ネット」より

端午節休暇市内旅行人数は去年より倍増

今年の端午節休暇は、市内の各大規模遊園地に観光客が殺到。昨日の統計データにより、一部の観光地の三日間の観光客数は去年同期より倍増した。

連日の雨は28日に止み、二日間続く晴れとなり、市内の観光地に多くの観光客が訪れた。29日の武漢植物園日帰りツアーの観光客数は去年の端午節三日間の合計と同じであり、今年の端午節の人数は12,000人で、去年より7,000人も多い。そのほか、海外の観光客は去年より明らかに増加した。

“六・一”(こどもの日)が近づき、子供は今年市内遊園地のメイン客となっている。統計により、子供の人数は三日間の観光客総数の1/4を超えている。武漢植物園は世界妙趣植物展覧会を開くほか、「漁師楽園」及び4D映画を用意し、観光内容はさらに豊富になった。

武漢動物園は障害児童に無料チケット配布を実施している。三日間の観光客は5万人以上に上り、去年より30%増加した。黄鶴楼公園も去年の9,000人から16,000人に増え、中山公園は、端午節後半二日間に6万人を突破し、2連休より1/3増加した。